

家庭科学研究部 教科伝達

家庭科学研究部 上地 貴枝

1 家庭科における「学びをつなぐ」とは

日常の中から問題を見出し、課題を設定

子供が生活の中にある問題を見出して課題を設定し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、よりよい生活の実現に向けて、課題解決に主体的、協働的に取り組む姿

日常生活での実践

日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、実践的・体験的な活動・問題解決学習を通して自己の成長を自覚し、自立の基礎を培い生活の営みの大切さに気づく姿

2 家庭科の見方・考え方

家庭科の見方・考え方については、「生活の営みに係わる見方・考え方」として示され、家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象を、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象を、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築」等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することとしている。

「

3 家庭科における「知識・技能」，「思考力・表現力・判断力等」

家庭科の目標は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるとある。

生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする資質・能力を次の通り育成する。

知識及び技能

家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図ると共に、それらに係わる技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

学びに向かう力・人間性等

家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。

4 授業づくりのポイント

- ・家庭科の学習は新しい時代をより良く生きる力を育てる教科であることを知らせる。
- ・家族の一員として生活する大切さや自分にできることが増えていく楽しさ自信等を、実践活動を通して学び、生活に直結する意識を常に授業で与える。教材・環境設定
- ・学習したことを実践につなげ、家庭生活への関心を持つようとする意識を持たせる。
- ・4つの見方・考え方（協力助け合い 健康・快適・安全 生活文化 持続可能な社会）

家庭科学習業デザインシート

授業者 上地 貴枝
栄養教諭 定歳 尚子

1 単元で育みたい資質・能力

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 献立を構成する要素が分かり、栄養のバランスを考えた1食分の献立での立て方を理解している。・ 調理に必要な材料の分量や手順がわかり、1食分の食事を段取りよく調理できる。
思考・判断・表現	1食分の献立の栄養のバランスや食事の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践や評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
学びに向かう力・人間性等	家族の一員として、生活をよりよくしようと、栄養を考えた1食分の食事やおいしく楽しく食べるための調理の仕方について、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活をよりよく工夫し、実践しようとしている。

本単元で育みたい資質・能力は、栄養バランスのとれた1食分の献立 ～お弁当編～・～調理実習編～・～家族編～について考え、実生活で活用することができる力である。①人が生命を維持したり、活動したり、成長したりするため体に必要な栄養素を食事からとっていることに気付かせる工夫や、②栄養のバランスを考えた食事をするには、健康の保持や成長のために役立っていることを理解させる工夫は、豊かな生活を創る自立した生活者を目指すことへつながっていくことを実感を伴って日常生活の中で体験させる場を位置づけ、生活主体としての資質・能力をはぐくんでいきたい。

2 本時について

題材名	こんだてを工夫して（私たちの家庭科5・6開隆堂）
本時	1食分のこんだてを立てよう ～お弁当編～ 4/11
本時の目標	献立を構成する要素が分かり、栄養のバランスを考えた1食分の献立を作成することができる。～お弁当編～
評価	献立を構成する要素が分かり、栄養のバランスを考えた1食分の献立を作成することができたか。（スライド）

本時の授業展開

- (1) 導入 本時の学習課題をつかむ。
- (2) 展開 お弁当の献立について考える。
 - ・ 給食の献立やWEBで検索したゆでる調理方法、いためるの調理方法を用いた献立を考える。
 - ・ 観点に沿って友達にアドバイスやよさを相互交流する。
- (3) 振り返る

3 授業者より

家庭科研究部が考える「学びをつなぐ」

- (1) 学びをつなぐ子供の姿とは ①自分の生活にある課題を発見し、「生活の営みに係る見方考え方」を働かせながら、その課題の解決に主体的、協働的に取り組もうとする姿 ②実践を振り返り、新たな課題に対し思考を働かせ、試行錯誤を繰り返し楽しみながら生活の向上の目指そうとする姿
- (2) 学びをつなぐ教師の姿とは ①子供がもっている生活の疑問や問題、営みに係る見方・考え方を引き出し、課題を明確にし、共有させ課題意識をもたせていく姿。 ②子供が獲得した生活の営みに係る見方・考え方を見とり、価値付け、共有していく姿

主体的・対話的で深い学びの実現へ向け、子供を中心に置いた授業デザインを念頭に置き、生活の中から課題を設定し、見通しをもたせるようにする。児童相互の関わりの中でいろいろなもの見方、考え方や行いがあるということを知り、自分の見方、考え方や作業の仕方などの充実を図りたい。仲間と協働して考えた献立を立てることや、家族のために1食分の献立を考える活動を取り入れ、既存の知識を活用し、友達と話し合う活動を通して多面的な見方に気づき、献立の立て方についての深い理解につなげていけるようにする。生活の営みに係わる見方・考え方を働かせて、よりよい生活を営むために学びのプロセスを大切に、生活主体としての資質・能力をはぐくみ家族の一員として自分の価値や学びのよさを実感させ、自信を高めたい。

4 本題材の指導計画（9時間コロナ禍に対応 11時間計画）

時	取組時期・関連	学習活動
8/29	学活 教育実習生担当	世界に誇れる和食のよいところについて考え、食に関する興味を持つ。
1	教育実習生担当 9/1	「どのような料理や食品を組み合わせるとよいだろう。」との問いを持たせ、よりよい食事について話し合い、1食分の献立作成の方法を知る。
2	11/10	献立を構成する要素が分かり、お弁当作りのポイントについて知る。題材の計画を立て、見通しを持たせる。ゆでる調理やいためる調理おかず
3 本時	11/15	栄養バランスを考えた1食分の献立（お弁当編）の立て方について考える。
4	11/18 お弁当の日	献立（お弁当編）づくりを通して考えたことや工夫したことを振り返る。
5	11/25	栄養バランスを考えた1食分の献立（調理実習編）の立て方について考える。
6	12/1	栄養バランスを考えた1食分の献立（家族編）の立て方について考える。家族と食べる食事を調理する。（週末・冬休みの課題として提示予定）
7	12/8 感染状況で判断	調理に必要な材料の購入をする。〔グループで買い物〕*材料の購入方法は検討
8～9	12/15 調整	栄養バランスを考えた1食分の献立（調理実習編）に取り組む。試行調理を行い、計画を検討する。
10	12/22	家庭実践を紹介したり自分の成長を振り返ったりして、家族の一員としての展望や自信を感じる工夫をする。